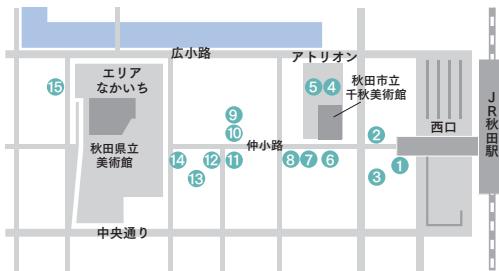


お得な半券サービス

秋田県立美術館と千秋美術館をつなぐ仲小路商店街。どちらかの美術館で展覧会を鑑賞し、半券(両館のパスポートも可)を対象店舗で提示すると、各種サービスを受けられます。「アートな街」をお得にお楽しみください。



店舗名	サービス内容
① プリモカワカミ (フォンテAKITA1階)	フォンテポイント2倍
② 無限堂 秋田駅前店	お食事の方にワンドリンクサービス
③ カフェ ラ ドゥ café La Doux (クロッセ秋田2階)	食事後のワンドリンクサービス
④ 秋田県産品プラザ	5%割引(一部対象外)
⑤ 札幌かに本家 秋田店	お食事の方5%割引 (現金のお支払で)

店舗名	サービス内容
⑥ ブランジーノ アキタ Branzi-no Akita	お食事の方にデザートサービス
⑦ そば処 四季	飲食代5%割引
⑧ レモンの部屋	5%割引(一部対象外)
⑨ ティールーム陶	100円引き(平日ランチは除く)
⑩ 食器のさかいだ	5%割引(一部対象外)
⑪ Kコレクション&レガロ	ポイント2倍サービス
⑫ 仲小路 コーヒー&ワイン	1,000円以上の飲食で5%割引
⑬ 親鶏らあ麺 いし川	トッピング1品サービス
⑭ 川口呉服	5%割引(サービス品除く)
⑮ ダイニングレストラン ザ・キャッスル (秋田キャッスルホテル1階)	ご利用金額の5%割引

秋田市立千秋美術館

開館時間 ●午前10時～午後6時
(入館は午後5時30分まで)



観覧料 ●常設展一般310円

大学生210円

高校生以下無料

休館日 ●12月29日(月)～1月3日(土)、

1月19日(月)～30日(金)、

2月22日(日)、3月16日(月)～31日(火)

〒010-0001 秋田市中通二丁目3-8(アトリオン内)

TEL.018-836-7860 FAX.018-836-7862

秋田県立美術館

開館時間 ●午前10時～午後6時

(入館は午後5時30分まで)



観覧料 ●展覧会ごとに異なる

休館日 ●12月10日(水)、11日(木)、31日(水)、

1月1日(木)、2日(金)、

1月19日(月)～23日(金)、

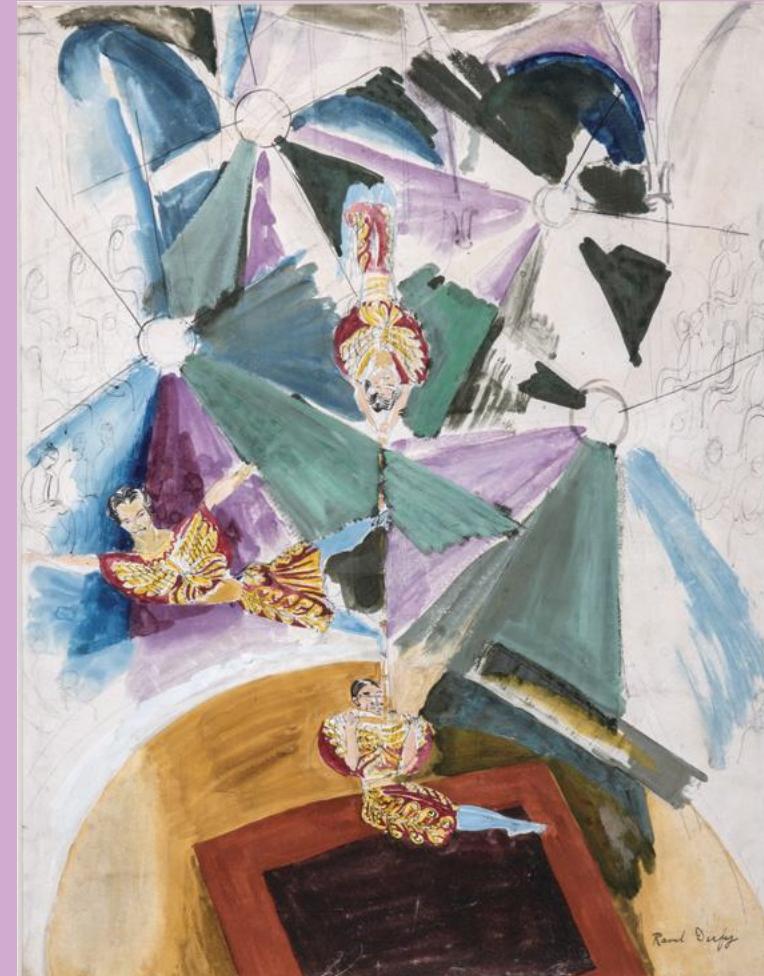
3月9日(月)～18日(水)

〒010-0001 秋田市中通一丁目4-2(エリアなかいち内)

TEL.018-853-8686 FAX.018-836-0877

News from the Museums of Art

artline



企画展

平野政吉のあつめた西洋絵画

vol.41

特集



編集 ●秋田市artlineプロジェクト実行委員会

秋田市立千秋美術館

秋田県立美術館指定管理者(公財)平野政吉美術財団

仲小路振興会

発行 ●2025年11月

表紙画像:ラウル・デュフィ《サーカス》公益財団法人平野政吉美術財団蔵

「視線」で 楽しむ美術



どんな気持ちでしよう

伊藤若冲《雨龍図》1760年代前半

ユーモアのある独特な表情をした生き物を多く描いた若冲らしい一点。瞳を上に向け口を大きく開けた正面向きの顔は他に類を見ません。もし目の向きが違ったら、どのように印象が変わるでしょうか。



一木草《シュミーズ着たる女》1927年

モデルは一木の妻であるサダカ夫人。夫人も、椅子も、壁紙も暖かみのある色合いで描かれています。2人が結婚したのはこの作品が描かれた1927年のこと。

大切な人なのです

[会期]
2025年11月22日(土)
- 2026年1月18日(日)

※休館日 2025年12月29日(月)～2026年1月3日(土)

[観覧料] 一般500円(400円)、
大学生300円(240円)、高校生以下無料
※()内は20名以上の団体料金、障がい者割引および秋田県立美術館相互割引料金
※くるりん周遊バスで観覧の場合、一般190円、大学生90円

「美術」と「視線」。この2つの単語から何が思い浮かぶでしょうか。作品を見るという行為や、語りかけるように私たちに眼差しを送ってくる作品、私たちの視線をさりげなく誘う(いざなう)構図上のテクニックなど、様々な例があるでしょう。

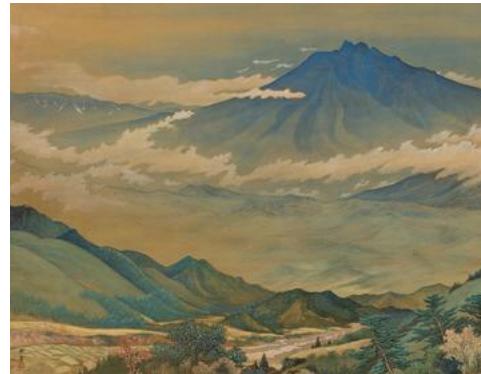
本展では、その美術と視線の関係に注目し、「視線」をキーワードとした5つのテーマを通して約40点の所蔵品の魅力をご紹介します。

寺崎廣業展 -清らかに、雄大に-

[会期] 2026年1月31日(土)-3月15日(日)

※2月20日(金)より一部作品を入れ替えます。
休館日 2月22日(日)(アトリオン全館点検日)

[観覧料] 一般500円(400円)、大学生300円(240円)、高校生以下無料
※()内は20名以上の団体料金、障がい者割引および秋田県立美術館相互割引料金
※くるりん周遊バスで観覧の場合、一般190円、大学生90円



《秋山雨後》1909年

初公開作品もお楽しみに!



《千紫万紅》1913年



※画像はすべて秋田市立千秋美術館蔵

寺崎廣業(1866-1919)は、秋田に生まれ、日本画の近代化が叫ばれた明治から大正にかけて活躍した日本画家です。優れた画技に裏打ちされた作品は、歴史画、美人画、山水画と幅広い作域に及び、東京美術学校(現東京藝術大学)教授、文展審査員、帝室技芸員などの要職をつとめました。1910年、横山大観らと中国を訪れて以降自然を写すことに力を注ぎ、晩年は信州の雄大な山岳美に魅了され、別荘を築いて制作に打ち込み、写実と装飾を融合した独自の画境を拓きました。

生誕160を迎えて開催する本展では、秋田での修業時代から晩年まで、所蔵作品を中心に約40点の作品と資料により画業の変遷をたどり、その芸術の魅力に迫ります。

企画展 平野政吉のあつめた西洋絵画

[会期] 2026年1月24日(土)–4月12日(日) (予定)

※休館日 2026年3月9日(月)~3月18日(水)

[会場] 秋田県立美術館 3Fギャラリー

[観覧料] 一般310円(250円)、シニア280円(250円)、学生210円(170円)、高校生以下無料

※()内は20名以上の団体料金、シニアは70歳以上

※身体障がい者手帳・療育手帳・精神障がい者手帳(ミライロID可)を持参の方と付添1名は無料

[主催] 秋田県立美術館(指定管理者 公益財団法人平野政吉美術財団)

秋田市の資産家・平野政吉は青年の頃から美術への思い入れが深く、生涯を通じて美術品を蒐集しました。はじめは浮世絵、骨董、刀剣など東洋の美術品に関心を寄せていた平野ですが、1930年代、藤田嗣治とともに秋田での美術館建設を構想してからは、蒐集の範囲を西洋絵画にも広げています。

本展では、幅広いジャンルや時代におよぶ平野政吉コレクションのなかから、西洋絵画の作品群に注目。藤田との交流を機に目を向けた平野の西洋へのまなざしを追います。



ラウル・デュフィ《サーカス》

グッシュ、インク、鉛筆・紙 (表紙画像)

20世紀前半にフランスで活躍したラウル・デュフィ(1877-1953)は、フォービスマ、キュビズムと時代の潮流に合わせ様々な手法を吸収し、やがて豊かな色彩と軽やかな線描で華やかな世界を描く独自の画風を確立しました。人々の熱気や活力を表すテーマやシーンを作品にすることが多く、サーカスについても好んで描いています。本作は3人の男が派手な衣装を身に纏い、まばゆい光の中で演技をしている様子。軽快な線で描かれた各々の姿は、スピード感溢れるサーカスの一幕を切り取っているかのようです。

関連イベント

○学芸員によるギャラリートーク

[日時] 2026年1月31日(土)、2月15日(日)、3月7日(土)
各日ともに午後2時~2時30分

[会場] 秋田県立美術館 3Fギャラリー

※観覧券または年間パスポートをご持ください。



anton・モーヴ《憩える牛》

油彩・カンヴァス

作者のanton・モーヴ(1838-1888)は、オランダ出身の写実主義の画家。ハーグ派と呼ばれる集団の中心的な存在として活躍し、義理の従兄弟であるゴッホの初期作品へ影響を与えたことでも知られています。主に自然の中における人物や動物を題材に作品を手がけており、本作も草原でくつろぐ牛の姿を捉えています。遠くまで広がる草原で多くの牛が放牧されていますが、その中でも前景にいる3頭の牛が印象的です。それぞれの色や模様、仕草が写実的に描かれており、大自然で自由に過ごしている牛たちの穏やかな時間の流れを感じさせます。

浅井忠《秋郊》

油彩・カンヴァス

日本近代洋画の先駆者として知られる浅井忠(1856-1907)は、工部美術学校でイタリア人画家のアントニオ・フォンタナージから西洋画を学ぶと、農村や漁村などの風景を写実的に描いた作品を多く残しました。本作にも、何気ない農村の景色が広がっています。秋晴れの下、川のそばにいる三人は作業の合間の休憩中でしょうか。穏やかな水面には対岸に軒を連ねる家や木々が映り、平穡な日本の風景が描き出されています。



フィンセント・ファン・ゴッホ《ガシェ氏像》

エッチング・紙

19世紀末に起きたポスト印象派を代表する画家として知られるフィンセント・ファン・ゴッホ(1853-1890)は、37年の生涯で数多くの名作を残し、波瀾万丈の人生を歩みました。本作は、晩年のゴッホの診療を担当した精神科医のポール=フェルディナン・ガシェがモデルとなっています。医師である一方、自ら絵を描いたり、様々な画家と交友のある美術愛好家でもありました。ここに描かれたガシェは、きちんとした服装に身を包んでいますが、パイプをくわえ落ち着いた表情を見せる姿は自然体のようであり、画家とモデルの間にある親しい交友関係をうかがわせています。

※すべて公益財団法人平野政吉美術財団蔵

企画展 藤田嗣治×ファッション

[会期] 2025年11月15日(土)–2026年1月18日(日)

※休館日 12月10日(水)・11日(木)、12月31日(水)~2026年1月2日(金)

[会場] 秋田県立美術館 3Fギャラリー

[観覧料] 一般310円(250円)、シニア280円(250円)、学生210円(170円)、高校生以下無料

※()内は20名以上の団体料金、シニアは70歳以上

※身体障がい者手帳・療育手帳・精神障がい者手帳(ミライロID可)を持参の方と付添1名は無料

[主催] 秋田県立美術館(指定管理者 公益財団法人平野政吉美術財団)

藤田嗣治は、布の質感や色、模様に惹きつけられ、若い頃から晩年まで、さまざまな布を収集していました。そして、それらを作品のなかに描き出しています。また、藤田はミシンや手で衣服を縫いあげ、それを着した姿を写真に残しています。

このたびの展覧会では、藤田が描いた作品などから、布や衣服、衣装に対する画家の想いをよみとります。

関連イベント

○学芸員によるギャラリートーク

[日時] 2025年11月22日(土)、12月20日(土)、
2026年1月17日(土) 各日ともに午後2時~2時30分

[会場] 秋田県立美術館 3Fギャラリー

※観覧券または年間パスポートをご持ください。



藤田嗣治がフランスから送ったモード雑誌



自分で縫った服を着る藤田嗣治 ロンドンにて 1916年9月

※すべて公益財団法人平野政吉美術財団蔵

アライの輪を広げよう!

仲小路商店街では、10月に実施された秋田市主催の「アライの輪を広げようキャンペーン2025」に協力しました。「アライ(ally)」とは、LGBTQの方々に寄り添う味方のこと。各店舗では、LGBTQ支援を象徴する6色のレインボーフラッグにちなみ、「にじ(多様性)」をテーマに様々な企画を行いました。

café La Douxでは、6色の虹色チーズケーキを提供しました。糖質制限中でも安心して食べられる天然甘味料ラカンカを使用した優しい甘さで、10日ごとに味が変わる、見た目も味も「にじいろ」のケーキはお客様にも好評でした。

食器のさかいでは、さまざまな色の組み合わせにより、一枚一枚違う表情を見せる津軽びいどろの豆皿をLGBTQのパンフレットやキャンペーンのアンケートと共にディスプレイした特設コーナーを設置しました。

キャンペーンは終了しましたが、商店街では、多様性を認め合い、誰もがいきいきと暮らすことを大切しています。



café La Doux



食器のさかいだ

学芸員リレーコラム

仲小路でアートを探そう(第23回)

9月7日に閉幕した「ミネバネ!現代アート タグチアートコレクション」。秋田市立千秋美術館と秋田県立美術館が合同で開催した展覧会でした。同展会期中、「どこだべ? まちなかアート探し!」と題し、出品作家のひとりである金氏徹平さんの作品が秋田市内10カ所に出現しました。みなさんは見つけることができたでしょうか。

金氏さんの作品は、異質のものを積み重ねたり、つなぎ合わせたりして、ものが持つ本来の意味や価値を変えてしまいます。カフェの窓に穴が開き、そこから木の棒が飛び出したり、スライムがよろつと垂れたり。大きな柱に開いた穴からは、バットを持つ手が飛び出しています。見慣れた建物や街が、全く別のものに見えてきたことでしょう。

展覧会は終了しましたが、実は今も、仲小路のどこかに金氏さんの作品があります。秋の散策や美術館巡りの途中に、是非探してみてください。(秋田県立美術館・佐々木)

